

多摩永山中学校だより

7つの習慣～Leader in me～と ESD

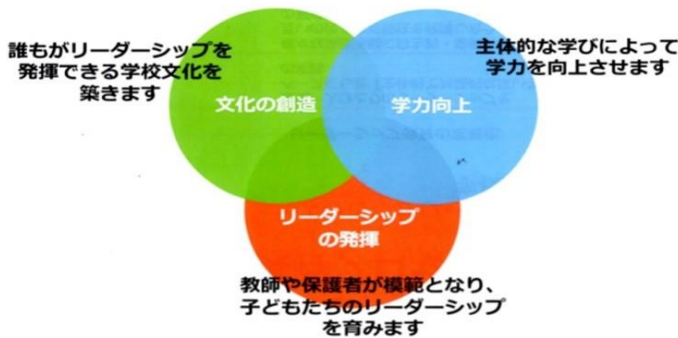


「リーダー・イン・ミー」のフレームワーク

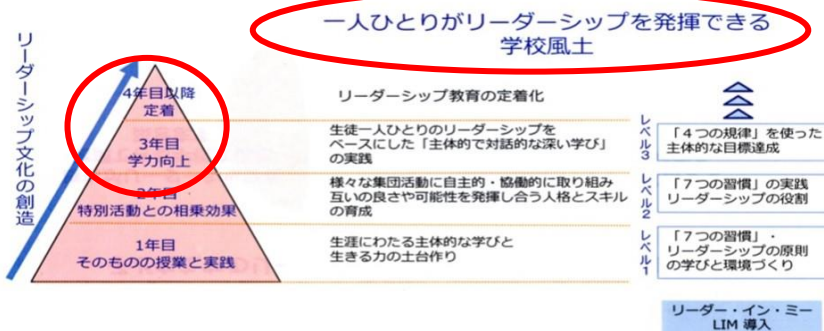
SEE 中心となる 見方	リーダーシップ		潜在能力		組織変革		モチベーション		教育	
	一般的	効果的	一般的	効果的	一般的	効果的	一般的	効果的	一般的	効果的
	一部の人がリーダーになれない	すべての人がリーダーになれる	才能は特別な人にだけ与えられたものだ	すべての人に独自の才能がある	学校をよくするには、まずは体制を変える	変化はまず自分自身から始まる	生徒の学習を管理・指示する	生徒が自ら学習できるように支援する	学力の結果のみフォーカスする	全人的なアプローチによって教育する

「リーダーシップ」を育む学校全体での取り組み

「リーダー・イン・ミー」は教師・保護者・地域社会が連携し、子どもたちのリーダーシップを育む学校文化を築きます。



「リーダー・イン・ミー」を活用した取り組み (実行プロセス)



本校の教育の特色の一つとして7つの習慣～Leader in me～があります。7つの習慣を取り入れて、4年目になりました。今年度は、7つの習慣の考え方を学校文化として定着させ、さらに生徒には持続発展的な学びとしてESDにつなげていきたいと考えています。今年度のキーワードは「チャレンジ！（挑戦）」です。生徒には、一人ひとりの役割や目標に向かって努力していくリーダーシップを求めています。ぜひ、ご家庭でも応援してあげてください。学校全体で挑戦していきます。

「リーダー・イン・ミー」の考え、実践を生徒・職員・保護者・地域全体で取り組みましょう。！

2050年の多摩永山中学校の学校環境を思い描いて、今チャレンジの第1歩を踏み出そう。

副校長 藤塚 正

永山小・瓜生小・多摩永山中三校のSDGsの目標は、「住み続けられるまちづくり」です。多摩永山中は、開校当時の生徒・職員・保護者の皆様が植樹した赤松が立派に育ち、広大な敷地を見守り育ててきましたが、当時の人たちの思いに反して、近年松食い虫被害に遭い、数年のうちに赤松が全滅する危機状態になってしまいました。残念ながらこの現状は、回避出来ません。しかし、私たちはこのピンチを広大な敷地を改良する取組のチャンスであるととらえています。すなわち年々坊主になっていく敷地法面の再構築を考えています。そのために生徒会のメンバーが学校運営協議会に参加し、地域の有識者とも連携しながら、敷地法面の再構築を考えていきます。法面の再構築には、生徒・職員・保護者・地域の皆様多数の方々の、絶え間ないご協力が必要です。具体的には、現多摩第二小学校校長の吉田正行先生が、東日本大震災の中、生き延びたひまわりを瓜生小学校で代々、大切に育てていましたが、そのど根性ひまわりを多摩永山中学校でも引き継いで育てていきたいと考えています。また、多摩永山中学校の敷地内では、前校長の中村伸先生の取組により、多くの果樹や野菜の収穫ができています。これだけ多くの果樹や野菜が取れる学校は、そう沢山はないと思っています。しかし、管理が大変です。今は主事さんや地域の有識者、ボランティアの生徒のお陰で、現状を保っています。この先2050年に向けて、絶え間ない多くの人たちの手助けが必要となります。そのためには「多摩永山中に係わって良かった。多摩永山中に係わってみたいくなった。」と思えることが大切です。坊主になった法面には、ど根性ひまわりを第1歩に、菜の花、桜草、秋桜、曼珠沙華など見て楽しめる植物が植えられることも想像しています。また、現在、本校では椎茸栽培をしています。梅、柿、栗、キウイ、ブドウ、ブルーベリー、スモモ、林檎、柑橘類、ワラビ、ゼンマイ、ふきのとう、タラの木、ミョウガなど、地域の方々が学校に出向き、お世話をして、生産物は各御家庭に持ち帰って頂くそんな取組ができればと考えています。本校でも椎茸栽培の元になる櫨の木があります。櫨の木の葉を使ってカブトムシの幼虫を育て、成虫は、夏祭りで子供達にお渡しできれば良いなとも考えます。本校には、狸がやってきます。カブトムシや椎茸を狙ってやってくる狸との共存も良いかもしれません。また、花の蜜を求めてやってくるミツバチ養蜂なら、教育長の千葉正法様からのレクチャーをお受けし、養蜂活動ができるかもしれません。1年毎に地道にできることから継続していくことが大切です。4/28(木)地域ボランティア代表の大久保さんを初め、地域の方々が体育館周りのロータリーの花壇の草むしりをしてくださいました。また職員玄関のチューリップ、パンジー等のお世話もしてくださっています。いつもありがとうございます。さらに、同日、相澤農園様の方々を中心に、テニスコート脇の農園に里芋植えをしてくださいました。そして、4/30(土)には、石川様、佐藤様、尾沢様、草間様、池田様が農園の草むしりをしてくださいました。このように本校はいつも地域の方々に見守られながら、日々成長しています。本当にありがとうございます。今後も地域の皆様の「リーダー・イン・ミー」をよろしく願いいたします。〈職員玄関前のチューリップとパンジー・テニスコート脇の農園〉





〈整備されたロータリー〉 〈狸は夫婦でやってきます。〉

3月23日（水）「社会を明るくする運動」作文コンテスト 佳作 当時2年 塚野 渚
「犯罪のない社会のために」永山公民館5階ホールにて阿部裕行市長様から直接表彰される。

非行、犯罪、と聞いて良く思う人は少なくともいないだろう。だが、それを自分の事情だけで行動してしまう人はこの社会に少なからずいる。なぜ常識に背を向けるようなことが簡単にできるのか。その原因の一つに周りの環境がその人にとってどのような場所であるかが大切だ。ニュースなどでも犯行をした子は虐待を受けていたり、交友関係がうまくいっていなかったりなどの環境が反映していることがある。特に私のような年頃になると様々な悩み、不安などをもつ子が多い。その悩みや不安があるときに近くにすぐ相談できる大人、又は友人がいるかいないかでは大きく違う。私も一度、周りの環境で悩まされていた子の相談を受けたことがある。その子が相談中「もう全部がいやだな。つらいな。」と口にした。私に勇気を出して「つらい」と言ってくれたことで、どれだけ周りの人が安心、そしておちつく場所をつくってあげることがとても大切なのか学んだ。もしそのまま一人で悩みを隠し抱え込んでしまっていたら…と考えるとその子にとって相談できる友達でいて良かったと思う。これとは違って、反抗期の時期などに万引きをしてしまうこともよくあるケースの一つにある。万引きを防ぐために万引きをさせない店、万引きをしない自分をつくることがもとめられる。万引きをしない自分をつくるとは、自分でお金の管理をしたり、なりたい自分を目にする事だ。そうすることで自分に必要だと思うことなどの判断ができるようになると思う。

また、万引きなどの犯罪をしてしまった人の立ち直りには周りの人が手をさしのべて居場所をつくってあげる社会にしていくことが大事だ。「立ち直り」という言葉を聞いて他人言として捉えるのではなく自分言として受け止め立ち直りに力をかけてあげることが犯罪や非行のない社会への第一歩となると思う。

犯罪、非行のない社会をつくるために周りの人が居場所をつくってあげること、そして自分が犯罪はいけないこと、絶対にしないという意志をもつことが明るい社会へのスタートになることが大切なので、自分も明るい社会へしっかりと貢献したい。

マスクに関してのご理解とご協力の依頼

本校では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、生徒の皆さんに学校でのマスク着用をお願いしていますが、運動時や密でない状況では、マスクの着用は必要ないことも指導しています。マスクの着用につきましては、様々な事情により、マスクをしない生徒、できない生徒がおりますこともご理解いただきたいと思います。学校では、マスクをすること、しないことで、いじめや差別につながらないように注意し、指導してまいりますので、本校の教育活動に保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮しながら、ここ2年間でできなかったことにチャレンジしました。

体育館で全校生徒が集まり、行事をすることに取り組みました。どきどきしながらも、なんとか4月に5つの行事を全校体制で実施できました。生徒1人ひとりの努力と保護者の皆様のご配慮、ご協力のお陰です。5月には、1年生移動教室、運動会と大きな行事が二つありますが、健康管理を第一に、学校行事を成功させていきたいと思ひます。保護者の皆様の御意見を大切にしながら、運営にあたっていきますので今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。4月に全校生徒（保護者）参加で実施できた行事は、次の5つです。

- | | | |
|------------|----------|----------|
| (1) 新入生歓迎会 | (2) 全校朝礼 | (3) 生徒総会 |
| (4) 保護者会 | (5) 離任式 | |



〈新入生歓迎会：委員会の紹介と新入生お礼の言葉〉



〈生徒総会〉 〈生徒総会後の3年生実行委員による運動会クラスカラー抽選：1組黄、2組赤、3組青〉



〈菊池先生・大久保先生・村田先生・畠田先生をお迎えしての離任式〉